

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

季節は秋へと変化していますが、前号でご紹介しきれなかった、福岡教区「博多にきんしゃい」プロジェクトの夏休みリフレッシュプログラム実施についてご紹介します。今回は、今年4月に熊本地震が発生したことを受け、熊本に住む外国籍の親子を対象に実施されました。また、秋らしいイベントとして、カトリック八木山教会「八木山オリーブの会」から、被災者との芋煮会の様子が届きましたので、ご紹介します。そして、台風10号による被害を受けた岩手県岩泉町では、ボランティアをまだまだ募集しています。交通費負担軽減措置も期間限定で取られていますので、お知らせします。最後に、仙台教区サポートセンターからのお知らせがございます。どうぞよろしくお願いいたします。

博多にきんしゃい from くまもと

福岡教区

～「博多にきんしゃい from くまもと」実施のきっかけ～

福島家族支援実行委員会委員長 大名町教会 目良 信子

東日本大震災後、福島第一原発事故で被災された家族を応援しようと立ち上げた福島家族支援実行委員会。毎年、被災されたご家族を対象に、子どもたちには外で元気に遊んでもらい、親御さんには日頃の心配から離れ、ほっとした時間を過ごしてもらうため、3泊4日のリフレッシュプログラムを企画・実施しています。

そんな支援活動の中に起きた今年4月14日21時26分、熊本地震。いつまでも続く余震の恐怖。福岡教区内の仲間の災難に、私たちに何が出来るのか話し合いました。私たちは高齢者の多い支援グループで、現地でのボランティア作業は難しい。でも熊本の家族にもリフレッシュプログラムを体験してもらい、元気にほっとする時間を提供したいと思い立ちました。



熊本・支援先世話人 武蔵ヶ丘教会 多田 由理

カトリック女性の会熊本支部の方から、被災した子どもたちの『いやし』プログラムを企画している団体があるので、外国人の被災者の方々などにお声かけしたら、という提案をいただいた。

頭に浮かんだのは、月に一回、武蔵ヶ丘教会で開かれる英語ミサに集まってくる親子たちのことだった。ちょうどコムスタカ（外国人と共に生きる会）主催のシンポジウムにおいて、日本人ほど地震災害について予備知識のない在熊本外国人たちの、涙ながらの被災体験を聞いた直後だったので、親御さん方が狼狽憔悴しきった中での震災直後の日々、子どもたちは不安な思いを一層強めたのではないか、という思いがあった。



その週末の英語ミサに、福岡から目良さんが駆けつけてくださり、企画者の顔が見えるお誘いに安心感があった。お声かけすると、すぐに3家族がその場で参加表明。その後、友人たちにも声をかけ合い、最終的に6家族17人が、8月20日(土)から1泊2日の日程で、「博多にきんしゃい」の皆さんと楽しい二日間を過ごすことができた。

私自身、七年半にわたり外国生活をしてきた経験から、母国を離れた異邦人としての旅の生活の中で、人としての根本的な温かさを持って関心を寄せられる時、温かさに飢えていることも手伝って、本当に心から感動することを実感している。

今回参加した外国人家族にとって、同じ信仰を持つ仲間との出会いや祈りの経験は、普段なかなか得難いこともあって、大地震という予期せぬ恐ろしさを耐え抜いたゆえに与えられた神様からの恵みの体験に、自身の信仰が一層強められていけばいいなあ、と願ってやまない。

～参加された方の感想～

手取教会 レベッカ カリカウェ（タンザニア出身）

みなさんと一緒に、福岡旅行に参加することができて、とてもうれしかったです。今回の経験は、想像していた以上に楽しいものでした。これまで、福岡空港に向かう以外に立ち寄ったことがなかった私たちは、様々な活動をご用意くださったおかげで、日本文化を学ぶ機会になりました。また、初めてお会いする方々と親しくなり、楽しい時間を共有する機会となりました。キリスト者の共同体の中で多くの友達を作り、つながることができました。



愛する息子ロイが、初めてのプールで驚きと喜ぶ姿を見ることができたことも、親として心に残る思い出になりました。子どもたちは皆、大はしゃぎでした。

今回、初めて日本カトリック女性団体連盟の会長とお会いすることもできました。今回の企画をしてくださった方々や参加者の優しさとおもてなしは、数ヶ月前のあの恐ろしい被災体験をした私たちを前向きにしてくださるものでした。

私たちの主に深く感謝し、また、この思い出に残るプログラムを企画・実現してくださった皆様のお時間とご尽力に深く感謝いたします。皆様の上に神の祝福がありますように。

～ボランティア感想～

・今回は熊本地震被災者の外国籍の方々への支援に特化したものだったが、夜の懇親会のひと時、外国籍であっても日々の生活の中での悩みは私たちと同じなんだと気づく事ができ、同じ日本に暮らすカトリックの家族として、もっと外国籍の方々に寄り添う活動の大切さを強く感じた。福岡教区の活動として、しっかり腰を据えたものとなるように考えていきたいと思う。

・その時々必要とされていることや、関わる人々に寄り添いながら準備をしてこられた方々の支えと、この場所で誰かを励ましたいという変わらない想いに、強い力を感じます。また、誰かと力を合わせ、少しでも役に立てることで、生かされているという喜びを感じます。私はここにいながら福島と熊本、そしてそこに生きる人たち、しかも今年は、外国の人たちと出会うことで、タンザニアやフィリピンと繋がることもできました。「博多にきんしゃい」は、私を新しい出会いや支援へ背中を押してくれます。本当に感謝しています。

恵みの雨の芋煮会

八木山オリーブの会 野田 和雄

9月28日、八木山オリーブの会では、カトリック亶理教会に津波被災者を招き、5回目の芋煮会を行いました。

芋煮会のきっかけは、「畑に芋を植えたから、秋には芋煮会をやりましょう!」と、被災者の方に声をかけてもらったことです。被災者の方から提案された企画が実現し、ボランティアとしても喜びがありました。

当日は、あいにくの雨で、当初予定していた亶理公園での開催を諦め、教会での芋煮会となりましたが、場所の変更にもかかわらず、20名ほどが集まり、スタッフも含めると40名近くがともに楽しい時を過ごしました。

亶理教会の方々が、地元力を見事に発揮してくださったことと、ダルクからの応援を得ることができたおかげで、素早く亶理教会で会場設営を行うことができました。敷地内の保育園の許可を得て、外にテントを張り、テント内と教会事務室などに椅子とテーブルを並べ、40人分の場所を確保しました。

教会の台所では、亶理、八木山の台所のマリア様たちが、50人分の芋煮を大鍋2つ作ってくれました。味噌仕立ての宮城風芋煮には、秘伝のダシが入っているそうです。

大きな鍋から湯気があがり、良い香りが広がる頃に、雨は小降りとなり、会食が始まりました。教会の軒下やテントの下で、楽しいおしゃべりや笑い声が飛び交います。芋煮だけではなく、お漬物、お菓子、お茶などの飲み物もあり、中にはビールを持参した参加者もいました。ほんのり赤い顔の男性も楽しそうに笑っていました。



皆さんおいしい芋煮に満足の様子で、「おかわり自由!セルフです!」の声に、お椀を持って立ち上がる人が何人もいました。毎日一人で食事をする人も多く、たくさんの人々と笑いながらの食卓は、何より心のごちそうとなったようです。

食事後は、Sさんのギターによる歌。食べて飲んで歌って楽しんでいると、急に大雨が降り出してきたため、急いで聖堂に避難しました。

聖堂に皆さんが落ち着いたところで、ダルクの手品が始まりました。実は、ほとんどの人が、前回のお茶会にも参加されていることから、手品のパターンは知っていますが、手品の技より、会場とのやりとりがおもしろく、大変盛り上がっていました。最後は、「うわー!」という歓声と大きな拍手が起こりました。



雨の中、家が遠い人をお家まで送り届けたり、テント、椅子、机の撤去、台所や聖堂を元に戻す作業には、ダルクと台所のマリア様が大活躍してくれました。

今回は、亶理・八木山の教会だけではなく、ダルクが加わった新しいチームが、効率よく働いたことで、雨天の芋煮会を恵みの雨に変えることができました。

終わりに、参加スタッフ全員が聖堂に集い、祈りと分かち合いを行いました。当日が誕生日だったダルクの手品師のため、ハッピーバースデーの歌を歌う心暖まる分かち合いとなりました。

芋煮会に加わった人々の心が1つになり、祈りと分かち合いの中に神様がいてくださったと信じています。

台風10号被害に伴う災害ボランティアセンター情報

台風10号による被害に伴い、岩手県内の市町村には、災害ボランティアセンターが設置され、9月末時点で、延べ約13,500人ものボランティアが活動されました。

現在、災害ボランティアセンターが開設されている場所は、宮古市、久慈市、岩泉町の3箇所ですが、宮古市においては、10月中旬をめぐりに活動が終了する見込み、久慈市については、10月末まで活動予定となっています。

一方、被害の大きかった岩泉町では、9月末時点で、ニーズが200件超残っており、ニーズ完了率が約59%という状態です。また、孤立集落は解消されていますが、まだニーズ調査に入れない地域も存在し、これから新規ニーズが増える可能性があるようです。

岩泉町では、交通の便がとても悪いため、ボランティアを十分に確保できていないことから、少しでも多くの方に活動していただくため、交通費軽減等の支援策が出されていますので、紹介いたします。ただし、それぞれに期限が設けられておりますので、ご注意ください。

①高速道路 通行無料 (平成28年11月30日まで)

台風10号に伴う被災地救援等のために使用する車両の取り扱いについて、高速道路通行無料措置が、平成28年11月30日まで延長となっています。(※高速道路無料通行のためには、事前発行の「災害派遣等従事車両証明書」が必要です。詳しくは、岩手県社会福祉協議会のHPをご覧ください。)

②JRバス東北 運賃無料 (平成28年10月31日まで)

JRバス東北では、被災地域の復興支援のため、岩泉町と盛岡駅を結ぶ早坂高原線、久慈駅と盛岡駅を結ぶ白樺号、久慈駅と二戸駅を結ぶスワロー号を利用されるボランティアの方の運賃無料化を決定し、当初9月末まででしたが、平成28年10月31日まで延長されています。(※証明書等は不要で、乗務員にボランティアで利用する旨を申告する形となっています。)

③三陸鉄道 割引運賃 (無料乗車) (平成28年10月16日まで)

三陸鉄道株式会社では、宮古駅から乗車し、岩泉町または久慈市の災害ボランティアに参加される方への運賃割引(無料乗車)を平成28年10月16日まで実施しています。

④その他

岩手県災害ボランティアセンター主催、盛岡から現地(岩泉町)までボランティアを送迎する無料貸切バス(災害ボランティアバス)の運行(事前申し込み必要)や、岩泉町小本地区ボランティア無料宿泊所(10月31日まで、要予約)、浄土ヶ浜パークホテルのボランティア限定宿泊プランなどもあります。

災害ボランティアバスの詳細は、岩手県社会福祉協議会のHPを、無料宿泊所と宿泊プランの詳細は、岩泉町災害ボランティアセンターFacebookをご覧ください。

※各カリタスペースでは、特段、災害ボランティアセンターで活動するボランティアを募集・受付しておりませんので、ご注意ください。
個人にて、直接、災害ボランティアセンターで受付し、活動へご参加いただけますようお願いいたします。

～災害ボランティアセンター情報～

《久慈市災害ボランティアセンター（10月末までの予定）》

- 個人・団体・グループでの災害ボランティアを募集しています。
活動を希望される方は、必ず活動日の2日前までに、事前登録が必要です。
- *詳細は、久慈市災害ボランティアセンターのHPやFacebookをご覧ください。

【活動期間】 ※10月の活動日は、次のとおりです。

活動日 10月1日(土)～10日(月)、15日(土)、16日(日)、
22日(土)、23日(日)、29日(土)・30日(日)

【参加条件】・県内外は問わず、高校生以上（小中学生は保護者同伴）
で自己責任でボランティア活動ができる方
・ボランティア保険天災Aに加入済みの方

【久慈市災害ボランティアセンター】

〒028-0014
岩手県久慈市旭町7-127-3 久慈市総合福祉センター内
電話番号0194-53-3380 ファックス番号0194-52-7715
※開設期間：9月1日～10月31日（予定）

《岩泉町災害ボランティアセンター》

- 個人でご参加の方は、活動当日、直接災害ボランティアセンターへお越しの上、受付するか、電話でご連絡ください。
- 団体で参加される場合は、事前に人数、来所日等を災害ボランティアセンターにご相談ください。
- *詳細は、岩泉町災害ボランティアセンターのFacebookや、岩泉町社会福祉協議会のHPをご覧ください。

【岩泉町災害ボランティアセンター（岩泉町社会福祉協議会）】

〒027-0501
岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字森の越4-14 ふれあい交流福祉館
ボランティアセンター直通 090-7079-6035
※受付時間 8:30～17:00 ※活動時間 9:00～15:00

《水害ボランティア作業時服装》



※NPO法人レスキューストックヤード制作資料

仙台教区サポートセンターからのお知らせ
～米川ベース移管のお知らせ・相談役設置について～

東日本大震災被災地へ思いを寄せてくださる皆さま、いつも本当にありがとうございます。

2016年10月1日をもって、カトリック仙台司教区は、南三陸町で活動を行っているカリタス米川ベースの運営を、カトリック大阪教会管区に移管しました。2011年4月30日の開設以来、国内外から多くのボランティアさんが訪れ、活動に加わっていただきました。活動にご参加くださった皆さま、ベース運営に力を貸してくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

米川ベースは、今後も、南三陸町を中心に活動を続けていきますので、変わらぬご支援をいただけますようお願い申し上げます。

また、「新しい創造」基本計画にもありますように、地元の方々の関係を密にしながら今後の支援活動を展開していくため、2016年9月1日付けで、2011年立ち上げ当初から2012年8月まで、仙台教区サポートセンタースタッフであった園部英俊氏（カトリック元寺小路教会信徒）を、仙台教区サポートセンター相談役として迎えることになりましたので、お知らせいたします。

それでは、今後とも仙台教区サポートセンターはじめ、各カリタスペース、各小教区の活動へのご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

仙台教区サポートセンター センター長
平賀徹夫

カリタス米川ベースでは、現在、第一次産業支援（漁業・農業）、コミュニティ再生支援（お茶っこサロン、お掃除プロジェクト）、地域支援を行っています。



2011年、仮設住宅が建設された当初は、外で「お茶っこ」を行っていました。
通りすがりの方に声をかけ、「お茶っこ」を知ってもらおうきっかけと行っていました。

2011年7月、現在の場所にベースを移してから、多くのボランティアさんを受け入れることができました。当時は、「瓦礫撤去作業」がメインでした。



ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、sdsckoho@gmail.comまでメールをお送りください。次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただけますようお願いいたします。